

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2021年第11週 2021年3月15日（月）～2021年3月21日（日） 2021年3月25日作成

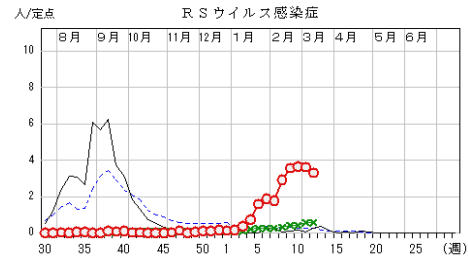
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）RSウイルス感染症

第11週の報告数は145人で、前週より14人少なく、定点当たりの報告数は3.30であった。

年齢別では、1歳（52人）、1歳未満及び2歳（25人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.80）、壱岐保健所（4.50）、県央保健所（4.33）であった。

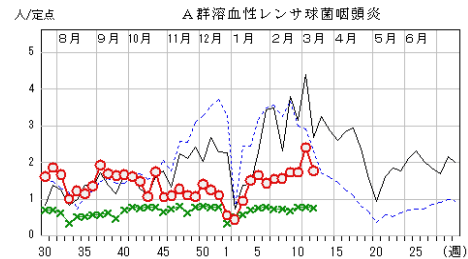


（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第11週の報告数は78人で、前週より28人少なく、定点当たりの報告数は1.77であった。

年齢別では、10～14歳（15人）、2歳（10人）、5歳及び6歳（8人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、県央保健所（8.83）、県南保健所（2.40）であった。

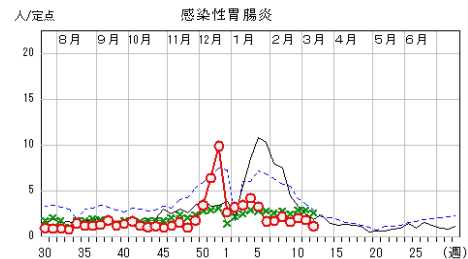


（3）感染性胃腸炎

第11週の報告数は51人で、前週より29人少なく、定点当たりの報告数は1.16であった。

年齢別では、1歳（14人）、2歳（8人）、10～14歳（7人）の順に多かった。

定点あたり報告数の多い保健所は、県南保健所（3.20）、県北保健所（2.67）であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【RSウイルス感染症】

第11週の報告数は145人で、前週より14人少なく、定点当たりの報告数は3.30でした。地区別に見ると、県南地区（12.80）、壱岐地区（4.50）、県央地区（4.33）は、他の地区より多くなっていますので、今後の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第11週の報告数は78人で、前週より28人少なく、定点当たりの報告数は1.77でした。地区別にみると県央地区（8.83）、県南地区（2.40）は他の地区より多く、特に県央地区は警報レベル8.0を超えていますので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第11週の報告数は51人で、前週より29人少なく、定点当たりの報告数は1.16でした。地区別にみると県南地区（3.20）、県北地区（2.67）は他の地区より多くなっていますので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：RSウイルス感染症に注意しましょう

家族内に乳幼児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者がいる場合、感染予防策を行う必要があります。

- 咳などの呼吸器症状がある場合は、マスクを着用して子どもたちに接することが大切です。(飛沫感染対策)
- 子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すり等をこまめにアルコール等の消毒剤で消毒しましょう。流水・石鹸による手洗い又はアルコール製剤による手指の衛生を徹底してください。(接触感染対策)
- この感染症は、幼小児に重度の呼吸器疾患を起こすウイルスです。年長児や成人では鼻かぜ程度です。乳幼児(特に1歳未満)では発熱をともなう上気道炎の他に、細気管支炎、肺炎などの重症の下気道感染症を起こします。なかでも重要なのが細気管支炎で、喘鳴や咳があり、呼吸困難になって重症となることがあります。通常は1週間から10日で軽快します。
- ワクチンや有効な抗ウイルス薬はありません。
- 長崎県では、例年より遅れて1月から患者数が増えている状況です。

グラフ. 長崎県の定点当たりの報告数

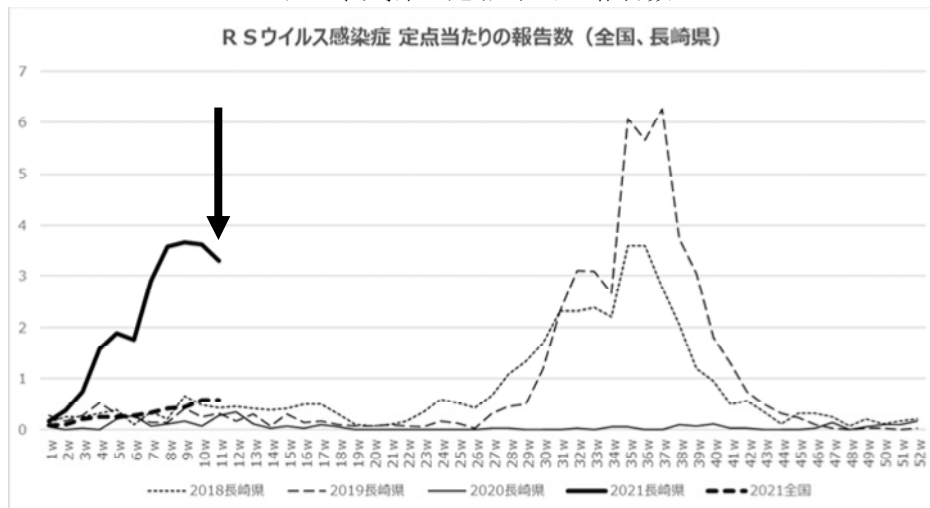


表. 保健所別定点当たりの報告数

	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w
長崎市	0.10	-	0.20	0.30	-	0.20	0.30	2.40	2.00	1.10	1.00
佐世保市	0.50	-	1.17	5.17	5.83	8.17	8.00	4.50	4.17	5.17	4.17
西彼	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.50	0.75
県央	0.33	2.17	3.50	-	0.67	0.33	3.33	5.00	4.00	3.33	4.33
県南	0.25	0.75	-	2.75	4.60	3.20	6.40	12.20	14.80	12.40	12.80
県北	-	-	0.67	7.67	6.00	2.67	6.33	4.67	6.00	7.67	2.67
五島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上五島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
壱岐	-	-	-	-	1.50	0.50	3.00	0.50	-	3.00	4.50
対馬	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

グラフ. 患者年齢別(2021年累計)

